



ふるさと学校・今年も開校

たぐさんのお子さんの参加を！

昨年始めて、夏休みの期間を利用して開設されました「ふるさと学校」は、ふるさとの再認識に大いに役立ったと大変な好評をいただきました。(会報24号参照)
 本年もひき続いて実施されることとなりましたので、多数のお子様の参加をお待ちしております。

- 一、期 日 8月17～20日(三泊四日間)
- 一、参加費 一万円(食事・おやつ代その他)
- 一、申込み 7月31日まで
- 一、対象 原則として小学校3年生から6年生まで。希望があれば、中学生も受け付けます。
- 一、宿泊 ふるさと会館

母校の小学生も多数参加致します。

参加ご希望の方、又参加を考えてみたい方には、詳しいスケジュールや説明案内をお送り申します。東京片貝会場で、電話又ははがきで申し込んでください。
 現地(片貝)で参加されても結構ですし、又東京より参加されるお子様には、東京片貝会の役員が責任をもって、お連れ致します。
 交通費は各自負担願います。昨年は父兄の車で参加し、帰京したお子様もありました。又希望があれば、父兄の付添え参加も自由です。

会の動き

五十七年新年会 1月31日
 二面参照

ふるさとを語る座談会 2月8日

新潟日報社が主催し、会員十名が出席して開かれた。会場は新宿にて。この記事は2月27日の誌上に大きく掲載され郷里に大変な反響を呼んだ模様である。同記事は、日経、朝日、読売、サンケイなどの新潟版にも載った。スポンサーは東京電力。

鶴田国茂氏の工事場火災にあう

同氏は仲使山に祭られている鶴田先生のご子孫(大14卒)。お父さんの代から、東京で建築業を営んでおられる。四月五日未明、何者かによる放火で、広い作業場と宿泊施設が全焼した。この記事は

同級会便り

陽光会(昭31)

2月21日上野水月ホテルで。こ
 こは中学の修学旅行で迫った宿。恩師二人を招いて、片貝からも参加。25人が出席し盛会だった。
 十三鶴会(昭32)

2月21日新宿の中村屋で。片貝

各社の夕刊にも大きく掲載されたが、会としては4月9日に参上し、心ばかりのお見舞を申しあげた。

ふるさとに活力を 4月30日

佐藤会長が浅田先生の葬儀に出席した際に、小、中学校長、同窓会長、農協組合長、公民館長、山村理策さんらと個人的に懇談した。そして、ふるさとの若い人達の今後の発展などについて、自由に話し合う機会があった。具体的ことはこれからの課題となろう。

青巖荘の旅 4月11・12日

三面参照

總會準備のための役員会

5月16日 自動車健保会館にて

からも六名が参加し、みんなで26名が出席した。恩師も招いて、意義ある会合であった。

朗志会(昭30) 小林 勇さん

同氏は本会役員小林敬司さんのご長男。去る4月30日急逝された39才の若さ。謹んで哀悼申します。

東京タワーの新年会

↑増上寺（1月31日）↑

冬晴れの光りが明るい。

今年の新年会は、少し趣向を変えて、皆さんに東京タワーに集ってもらった。十一時過ぎ、展望台に昇る。お正月最後の日曜日は、非常な賑わいであった。

眼下に林立するビルが、冬の日射しに映えて、発展し続ける日本の象徴のように感ぜられた。東京湾が青く輝いている。



もちろん、記念写真を撮る。松井重治さん（昭2）がシャッターをきってください。その後、大広間に受付けを開始した。

湯河原から、いつものように参加くださる顧問の広井さんの乾杯で、懇親会がはじまる。

恒例の福引きの代わりに、皆さんにはタオルを差しあげ、あとには有志の方から寄贈された、心尽くしの品々が、福引きとしてくばられた。二十八名の会員からいただいた景品は、どれも皆目をみはるような品々ばかりで、好評を博した。ご芳名は一々挙げませんが、ご協力に対して、厚くお礼を申し上げます。

横浜からは箕輪先生がご出席くださった。いつに変わらぬお元気で教え児達の喜びようが、会場に暖い雰囲気を感じてくれた。

酒もまわり、のどもうるおって楽しさが満ち溢れてきた。丹治きみさん（昭18）、山田利雄さん（昭17）の日本舞踊に幾度も拍手が湧く。

やがて、暮れ方の迫まる頃、一

同再会を約して、歓呼のうちに閉会となった。

○出席者（八五名、敬称略）

来賓 恩師 箕輪みね

○大正

佐藤正雄、高桑きい、石上リヤウ南雲吉松、丸山松江、広井三代次

錦織ツタ、相崎尚次、安部盛治

神林徳次、水内脩治、佐藤量八

石黒ミス、安達宗吾、星野三作

安達清次

○昭和2〜10

松井重治、小川茂雄、浅田喜八郎

相崎勇次、山田雅子、黒崎定太郎

吉井武二、芝五郎、丸山千代野

山口三郎、浅田鉄二、相崎善次郎

小宮武次、安達幸一、黒崎米太郎

本田松次、朝妻ヨシ 勝又 功

黒崎孝造、大内とせ、日下部政子

平石ふみ、大矢光治、山口ヨシ

芝三四司、吉原菊枝、山口武一郎

堀井豊作、奥田佳子、武藤睦子

森本比夫

○昭和11〜20

黒崎音吉、高橋四郎、山口福次

浅田鉄夫、安達保治、太刀川善蔵

小宮徳治、佐藤広次、山口吉五郎

山賀豊司、藤塚吉雄、岩片千恵子

穂刈フサ、佐藤敏雄、佐藤道雄

相崎ヨシ、小宮八重、青木富代
丹治きみ、山田利雄、小宮幸雄



箕輪先生

西山和子、友田正雄、五十嵐貞雄
三重堀清
○昭和21〜30
山岸慶昭、黒崎正、五十嵐キヨ
小野塚茂、浅田六郎、小宮としえ
本田正弘、本田繁男
○昭和31〜32
藤塚 悟、大塚国夫、浅田達夫
吉井信三

会員だより

内海光子さんより（昭16）
会にはなかなか出席できませんが、会報は何時も懐しく読ませていただいております。早く子ども達も成人し、ゆっくり参加出来る日を、楽しみに頑張っております。

相崎ヨシさんより（昭和17）
新年会の節は大変お世話様でし

湯河原・熱海の旅

こととして 3 回目

朝から春めいた暖かい日射しが、私達をうきうきさせた。

東京から、また新宿から出発した皆さんは、一時過ぎ湯河原駅で落ち合うことになっていた。

青巒荘の広井さんが、今年もわざわざ駅まで、出迎えてくださるバスで一気に青巒荘を通り越して花見台までゆく。桜は正に満開の見頃どき。天候はよし、一同青空のもとで、ビールを汲み交わして晴れ晴れと、桜を楽しんだ。



三時過ぎのバスで、宿に戻り、岩風呂にひたる。部屋から眺める桜も、一段と輝いて見える。この桜は、赤味が濃く、しかも清純な華やかさが魅力的である。

懇親会の前に、皆さんに集っていただき、翌日の観光計画を相談した。また六月総会、ふるさと学校などについても意見をお聞きした。

広井さんから、武見太郎先生の近況を聞いたあと、一同乾杯して懇親会にうつる。

歌に踊りに、賑わいはいつ果てるともない。やがて、盆踊りの輪ができ、木遣り唄を全員で合唱して、それぞれの部屋に戻った。

翌朝、大方の皆さんは広井さんの案内で、熱海に出た。最近新しく開館したMOA美術館を見学。駅の真上にある、類いまれな眺望である。美術館の建物も、新しいデザインで一見の価値がある。

館内には、国宝仁清の茶壺を始め、すぐれた美術品が陳列されていた。また、太閤の茶室、能楽堂なども、目を見張るものがある。館外に出て、ほっと太息を吐



く。青い春の海が、キラキラと輝いている。庭園の枝垂れ桜が美しく。いつに変わらぬ広井さんの真心に深く感謝しつつ、それぞれ帰途に着いた。

参加者 (33名)

- 丸山松江、神林徳次、大矢福次
- 相崎尚次、山口源治 (静岡より)
- 佐藤量八、安達宗吾、浅田喜八郎
- 小林敬司、小川茂雄、松井重治、相崎勇次、相崎マサ、丸山千代野
- 芝 五郎、芝 もと、相崎善次郎
- 黒崎孝造、小宮武次、朝妻よし、勝又 功、大内登世、平石ふみ、奥田佳子、高橋四郎、五十嵐忠作
- 小宮徳次、山口福次、太刀川善蔵
- 黒崎音吉、丹治きみ、山田美代治
- 広井三代次

た。楽しい一日を過ごさせていただきましてありがとうございます。写真をお送り下さいました。思い出がまた一つ増えました。東京タワーから町や海を見て、東京に三十年も住みながら、東京の名所を知らないなあ、とつくづく思い知らされました。

佐藤祐一さんより (昭27)

厳しかった冬もようやく終わったよう春めいてまいりました。今度はお便りと写真をお送り下さりありがとうございました。日頃片貝会の御恩をこうむりながら、何もお役にたてず申し訳ございません。今後ともよろしくお願い申し上げます。

山家恵美子さんより (昭35)

ふるさと学校にお勧めいただきましたが、夏季の計画が立っておりまして、今回は参加出来ず残念に思っています。今後このような計画があるとすれば、私共郷土を離れていても、わが子がいつかは参加できるときも来るでしょう。ふるさと会館ができたために、再び片貝を訪れることができそうな感じがいたします。

ふるさと この頃

○小学校体育館の改築

昨夏解体された古い体育館が、この三月に完成した。これに立派な体育館を二つ持つことになり、児童達は体育に遊びに、毎日快適な学習を続けている。



残雪の中に新しい体育館は、みんなの喜びを反映するかのよう

○南極より佐藤和秀さん帰国

佐藤さんは昭和49年にも、南極に行かれ、その時の報告を、増上寺の総会の際、スライドを通して興味深く聞いたことがある。

今回は二回目の参加で、無事観測を了えられて、この三月帰国された。ご苦労様でした。現在は国立長岡高専の助教授です。昭和34卒

○関越高速道路の開通

この度越後川口ー長岡間が、3月30日に開通した。片貝の東部を走っており、やがて東京から、新潟まで貫通する日も遠くないことであろう。

○須川の大改修工事

土地改修工事の一貫として、こんど須川が二十五米幅に改修される。国の事業として、近く工事が始まるという。農業の発展に、大きく寄与することであろう。須川は町の東部を流れて、信濃川に合流している。

○仲使山公園墓地の設営

いわゆる上の招魂場は、町として

浅田壮太郎先生急逝

四月二十六日は町の人達を、良寛の五合庵までバスで案内された帰りの車内では、皆さんと一緒に歌も歌われたという。

その疲れが出たのか、翌二十七日の朝、腹痛を訴えられたので、安達医院さんの診察を受けた。容

体はただごとでないというので、救急車が手配された。その車が自宅に到着しないうちに、あーとひと声、まもなく息が絶えた。あつというまの出来事だった。お顔は在りし日の温顔そのまま、安らかな

であった。 「あー親の死にあったより、もっと悲しい。」と言っていた人があつた。

葬儀は正順寺で。市長をはじめ良寛会、文化財委員会、県史編さん会、新潟放送など、多数の弔辞弔電が寄せられた。参列者は堂に溢れ、境内まで埋め尽くすほどであった。

郷土史研究会の若い会員さん達が先生を抱きかかえるようにして、霊柩車に運んでいった。病氣は動脈りゅう破裂ということである。八十四才六か月の一生であった。

先生は片貝会にも何度か出席いただき、そのつどお話を承った。これからの片貝が、一段と寂しくなるのは確かである。(佐藤記)

ては最も整った墓地であるが、雨が降るとよくすべり、近年は相当痛みが目立つようになってきた。そこでお盆に間に合うよう、側溝を作り、参道を舗装して、公園墓地として整備されることになった。ここには本会が寄付した松風亭があり、ゆかりの土地でもある。入り口には、石塔も立つというところで、会としてもいささか協力できればーと思っている。

このため、新たに委員会を設け丸山良平氏が会長になられた。

○美しかった桜

例年になく降雪が少なかったためか、この春の桜は、まことに見事に咲いたという。

明るい話題として、町の誰彼となくうれしいことが交わされた

あとがき

いつの集りの時にも、たくさんの方々からご芳志をいただき、感謝に堪えません。紙面の都合で、これらのご芳名を紹介しあげることができませんでした。お詫びと共に、厚くお礼申し上げます。

総会にはぜひいらっしやってください。お待ちしております。諸兄弟のご活躍を切に祈りつつ。